

典型的な臨床所見を呈した高齢者上眼瞼部 メルケル細胞癌切除症例の検討

ふな つか まさ ひで こ にし い ち ろう
舟 塚 雅 英 小 西 伊 智 郎
すぎ はら と し お ない とう あつし
杉 原 登 司 夫 内 藤 篤

キーワード：高齢者，顔面，メルケル細胞癌，エンドオブライフケア

要 旨

症例は，93歳，男性。脳梗塞後遺症，認知症や循環器疾患などにて廃用，老衰が進行され，失語症，意思疎通困難，嚥下困難を伴う医療依存度が高い寝たきり状態。長期療養，経過如何での看取りの看護・介護対応目的で当法人内施設入所。202X年，Y月に右眉部に米粒大の発赤を伴う腫瘤様病変出現。初見では毛囊炎や霰粒腫を疑い経過観察，週単位で増大，Y月+3週後には，上眼瞼部に光沢を有す暗紫紅色で，1.3×1.2×1.0cmのドームの腫瘍となり，悪性腫瘍が疑われ，Y月+4週後に切除術を施行。病理組織検査で，メルケル細胞癌の診断であった。術後，QOLを考慮し，侵襲的な追加切除，放射線治療またはアベルマブ治療など併施せず経過観察。局所は，202X年+Y+24週間，臨終されるまで再発等なく経過した。

はじめに

メルケル細胞癌は，1972年に Toker¹⁾により初めて報告された希少な神経内分泌腫瘍である。高齢者の紫外線に曝露される顔面，頭頸部，上腕，下腿などに好発し，またその発生には，ポリオーマウイルスが関与することが知られている²⁾。色調は，光沢を伴う紅～暗紫紅色，形状はドーム状に隆起する腫瘍として観察されるが，多様な臨床

像を呈するとされている³⁾。今回，短期間（約4週間程度）で急激に増大した典型的な高齢者の上眼瞼部メルケル細胞癌の切除症例を経験したので，若干の文献的考察加え報告する。

症 例

症例は，93歳，男性
主訴：右上眼瞼部腫瘍
既往歴：60歳頃より2型糖尿病，85歳よりアルツハイマー型認知症指摘され共に内服療法。
家族歴：特記すべき事なし。
臨床経過：202X-1年，秋に突然ショックバイ

Masahide FUNATSUKA, et al.

松江記念病院 外科

連絡先：〒690-0015 松江市上乃木3-4-1

松江記念病院 外科